

蚊

蚊の主な種類

蚊にはたくさんの種類がありますが、身近にいる主なものはヒトスジシマカとアカイエカです。



ヒトスジシマカ

<大きさ>約4～5mm

<特徴>成虫は、全体が黒色で背中の中央に一本の縦すじがあり、脚の関節部に白色の帯があります。通称ヤブカと言われているものの代表です。吸血は昼間（特に朝夕）が中心です。

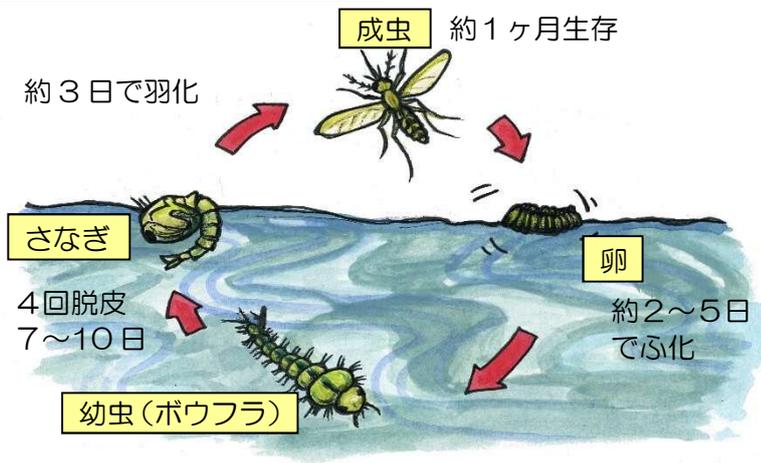


アカイエカ

<大きさ>約5.5mm

<特徴>成虫は、全体が灰褐色です。吸血は夜間が中心で、屋内にもよく侵入します。

蚊の一生



ヒトスジシマカの幼虫（左）
さなぎ（右）

蚊の発生場所

蚊の発生を防ぐには、蚊の幼虫（ボウフラ）を発生させないことが一番効果的です。通常、幼虫は水面に浮いていますが、刺激などを受けるとくねくねと動きます。

一般的に、ヒトスジシマカの幼虫は空き缶、空きびんやブロック穴などのちょっとした水溜りに発生し、一方、アカイエカの幼虫は側溝や排水ますなどで発生します。



ブロック穴



空き缶



植木鉢の受け皿



シートの水溜り



雨ざらしの容器など



排水ます

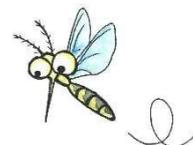
蚊の防除方法

1 幼虫対策

- 幼虫の発生源となる小さな水溜り（植木鉢、空き缶等）を除去しましょう。
- 汲み置きの水を週1回取り替えましょう。

2 成虫対策

- 成虫は、日中、樹木などに潜み、近づく人を吸血します。草刈りや剪定を行い、風通しを良くしましょう。



蚊に刺されないために

1 蚊の侵入を防止する

- 網戸のない窓等は開け放しをしないようにしましょう。
- 網戸は破れていないか、窓枠の隙間はないか点検しましょう。

2 外出する際には

- 蚊の多いところに出かけるときは肌の露出の少ない服装にしましょう。
- 市販の虫よけ剤や蚊取り線香を使用する方法もあります。虫よけ剤は用法用量、対象年齢が薬剤の種類によって異なるため、使用上の注意を必ず守りましょう。



蚊が媒介する感染症

1 デング熱・チクングニア熱・ジカウイルス感染症

デングウイルス、チクングニアウイルス又はジカウイルスを保有するネッタイシマカやヒトスジシマカ等が媒介します。デング熱、チクングニア熱は東南アジアや南アジア等、ジカウイルス感染症は中南米等の地域で発生しています。日本国内では、2014年東京都の代々木公園などで70年ぶりにデング熱の国内感染患者が発生しました。

2 ウエストナイル熱

ウエストナイルウイルスを保有するコガタアカイエカ等が媒介します。アフリカ・ヨーロッパなど広い地域で発生しています。

3 マラリア

マラリア原虫を保有するハマダラカが媒介します。熱帯・亜熱帯地方の広い地域で多くの患者が発生して、蚊が媒介する感染症で最大のものといえます。

4 日本脳炎

日本脳炎ウイルスを保有するコガタアカイエカ等が媒介します。近年、日本での患者発生はほとんどなくなってきました。しかし、東南アジアでは多くの患者が発生しています。

衛生害虫の相談は、保健センターへ

- | | |
|--|------------|
| ○千種保健センター 環境薬務課
(担当区：千種区、昭和区、瑞穂区、名東区) | ☎ 753-1973 |
| ○中村保健センター 環境薬務課
(担当区：西区、中村区、熱田区、中川区) | ☎ 433-3064 |
| ○中保健センター 環境薬務課
(担当区：東区、北区、中区、守山区) | ☎ 265-2256 |
| ○南保健センター 環境薬務課
(担当区：港区、南区、緑区、天白区) | ☎ 614-2862 |

※上記以外の保健センターでも来所相談を実施しますが、現地調査などは上記4保健センターに引継ぎます。